

## 1 平成29年度の変更点

### (1) 先進的電波有効利用型研究開発のフェーズの対象課題を拡充

概要: 電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題の実施に加え、電波を用いたIoTシステムの構築や社会展開を促進し、新たなワイヤレスビジネスの創出を意識した研究開発課題を対象とするもの。

対象: 大学、民間企業、研究開発法人、地方自治体等の研究者

期間: 最長2か年度(フェーズにより実施)

費用: 単年度3,000万円(直接経費上限額。別途間接経費(直接経費の30%を上限)を配分。)

### (2) 若手ワイヤレス研究者等育成型研究開発のフェーズの研究開発経費の上限値を300万円から500万円へ増額

## 2 平成29年度公募の概要

プログラム名		対象とする研究開発課題	研究開発経費 <sup>1</sup> (年度当たりの上限額)	研究開発期間	備考
電波有効利用 促進型研究開発	先進的電波有効利用型	電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズ : 500万円 フェーズ : 3,000万円	フェーズ : 1か年度 フェーズ : 最長2か年度	フェーズへの提案も募集
		<u>電波を用いたIoTシステムの構築や社会展開を促進し新たなワイヤレスビジネスの創出を意識した研究開発課題。</u>	フェーズ : 3,000万円	<u>フェーズ : 最長2か年度</u>	フェーズは提案内容によって評価の項目が異なる。
	若手ワイヤレス研究者等育成型	若手研究者又は中小企業の研究者が提案する電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズ : 500万円 フェーズ : 1,000万円	フェーズ : 1か年度 フェーズ : 最長2か年度	若手研究者(39歳以下等)、または中小企業研究者

1 別途間接経費(直接経費の30%を上限)を配分。

2 下線部分が平成29年度の変更点を示す。

# 採択評価の主なポイント

<p>先進的電波有効利用型</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 新しい電波利用の実現に向けた研究開発か</li><li>• 以下のいずれかの技術であって、おおむね5年以内に開発される技術として到達目標が明確に設定されているか<ul style="list-style-type: none"><li>a) 周波数を効率的に利用するための技術</li><li>b) 周波数の共同利用を促進するための技術</li><li>c) 高い周波数への移行を促進するための技術</li></ul></li></ul> <hr/> <p>【電波を用いたIoTシステムの構築や社会展開を促進し新たなワイヤレスビジネスの創出を意識した研究開発課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 新しい電波利用の実現に向けた研究開発か</li><li>• 以下のいずれかの技術であって、おおむね5年以内に開発される技術として到達目標が明確に設定されているか<ul style="list-style-type: none"><li>a) 周波数を効率的に利用するための技術</li><li>b) 周波数の共同利用を促進するための技術</li><li>c) 高い周波数への移行を促進するための技術</li></ul></li><li>• <u>電波を用いたIoTシステムの構築を目指した研究開発、新たなワイヤレスビジネスの創出や社会実装を意識した研究開発か</u></li></ul>
<p>若手ワイヤレス研究者等育成型</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 新しい電波利用の実現に向けた研究開発か</li><li>• 以下のいずれかの技術であって、おおむね5年以内に開発される技術として到達目標が明確に設定されているか<ul style="list-style-type: none"><li>a) 周波数を効率的に利用するための技術</li><li>b) 周波数の共同利用を促進するための技術</li><li>c) 高い周波数への移行を促進するための技術</li></ul></li></ul>

詳細は提案要領及び評価の手引きをご参照ください。